

# プログラム

10:30～12:00

地域研究コンソーシアム賞授賞式と記念講演

休憩

13:00～17:00

公開シンポジウム 全体司会 丸井 雅子(上智大学)

13:00～13:10

趣旨説明 福武 慎太郎(上智大学)

13:15～14:15

**基調講演** 石澤 良昭(上智大学)

「ソフィア・ミッションは難民を救済し、地域研究のアジア文化研究所を設立——カンボジアへ出かけて人材養成30年——」

休憩

14:20～15:05

**一般講演1** 日下部 尚徳(立教大学)

「グローバル・イシューと地域研究——貧困・災害・紛争の現場から」

15:05～15:50

**一般講演2** 陳 天璽(早稲田大学)

「グローバル・スタディーズのなかで考える「無国籍問題」」

休憩

16:00～16:55

パネル・ディスカッション「院生からの応答」

司会 戸田 美佳子(上智大学)

16:55～17:00

閉会の挨拶 根本 敬(上智大学)

## 一般講演1

### グローバル・イシューと地域研究——貧困・災害・紛争の現場から

深刻な貧困や災害復興、長期化する紛争などの喫緊のグローバル・イシューに対して、地域研究者は問題の背景を分析し、解決にむけたシナリオを提示してきた。一方で、政策立案者や実務者とともに問題解決に向けた取り組みに直接関わる機会は限られている。本発表では、バングラデシュを事例にグローバル・イシューの現場で地域研究者や地域研究を学んだ人材がその知見をどのようにいかすことができるのか、社会連携の視点も踏まえて考察を加えたい。



日下部 尚徳  
KUSAKABE Naonori

立教大学異文化コミュニケーション学部准教授。専門は南アジア地域研究、国際協力論。主な著作に、『ロヒンギャ問題とは何か』(編著、明石書店、2019年)、『わたし8歳、職業、家事使用人。——世界の児童労働者1億5200万人の1人』(単著、合同出版、2018年)、他。

## 基調講演

### ソフィア・ミッションは難民を救済し、地域研究のアジア文化研究所を設立——カンボジアへ出かけて人材養成30年——

1979年12月に立ち上がったヨゼフ・ピタウ学長(当時)が先導した「インドシナ難民に愛の手を」でアジア重視を打ち出した上智大学は、アジアの人たちと真の連帯感を持つための研究機関であるアジア文化研究所を1982年に設立する。講演者(石澤)は、上智大学をしてアジア文化研究所としての必然的なミッションのなかで、内戦最中のカンボジアへ出向きアンコール遺跡を中心とした「カンボジアのためのカンボジアによるカンボジアの文化復興」に専心する。地域研究専攻ではこれまでのべ18名のカンボジア出身者が学位を取得し、カンボジアで専門職に就いている。基調講演では、上智大学ならではの教育、研究、そして社会奉仕のミッションを、カンボジアで実践的に取り組んできた半世紀にわたる歴史を紐解きたい。



石澤 良昭  
ISHIZAWA Yoshiaki

上智大学アジア人材養成研究センター所長。専門はカンボジア碑刻文学・東南アジア史学。主な著作に、『アンコール・ワットと私』(連合出版、2018年)、『カンボジア近世史：カンボジア・シャム・ベトナム民族関係史(1775-1860年)』(めこん、2019年)等、他多数。

## 一般講演2

### グローバル・スタディーズのなかで考える「無国籍問題」

「世界人権宣言」において、「すべての者は、国籍を取得する権利を有する」とある。一方、世界には1200万人の無国籍者が存在する(UNHCR, 2018)。UNHCRは、2014年より無国籍キャンペーンを開始し10年間で「無国籍問題」を解決することを掲げた。はたして、無国籍者の存在は「問題」なのであろうか？これまで、日本、タイ、フィリピン、マレーシア、中東などで行ったフィールドワークの事例を紹介しながら、無国籍とグローバル・スタディーズについて考える。



## 陳 天璽 CHEN Tienshi

早稲田大学国際学術院教授、無国籍ネットワーク代表理事。横浜中華街生まれ。国際関係に翻弄され生後間もなく無国籍となる。移民、無国籍者に注目した研究に従事。筑波大学大学院国際政治経済学博士。ハーバード大学フェアバンクセンター研究員、日本学術振興会(東京大学)研究員、国立民族学博物館准教授を経て現職。著書に『華人ディアスポラ』(明石書店)、『無国籍』(新潮社)、編著に『パスポート学』(北海道大学出版会)など。